

1 実現に向けた施策

施策12 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化

【具体的な施策】

① 「大空港構想NextStage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充

② 熊本港・八代港の海外展開拠点化

施策13 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

【具体的な施策】

① 「KUMAMOTOブランド」の世界展開

② 世界とつながる国際人材の育成・活躍支援

2 重要業績評価指標 (KPI) の動向

評価指標	戦略策定時 (H27)	H28実績値 (H29評価)	H29実績値 (H30評価)	H30実績値 (H31評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	目標値 (H31)	種類	達成 状況
施策12 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化									
① 阿蘇くまもと空港利用者数 【施策5-①と同一】	323万人/年	298	-	-	万人/年	↘	380万人/年	単年	
クルーズ船寄港数	12隻/年	12	-	-	隻/年	⇒	70隻/年	単年	
② 熊本港国際コンテナ貨物取扱量	8,889TEU/年	7,396	-	-	TEU/年	↘	16,000TEU/年	単年	
八代港国際コンテナ貨物取扱量	18,151TEU/年	18,980	-	-	TEU/年	↗	28,000TEU/年	単年	
施策13 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出									
① 海外(国別)に輸出及び進出を行った県内企業数	495社 (H26)	573	-	-	社	↗	750社	単年	
HACCP導入施設数	27施設	40	-	-	施設	↗	100施設	累計	
海外高校への留学者数	12人/年	13	-	-	人/年	↗	20人/年	単年	
海外大学への進学者数	18人/年	12	-	-	人/年	↘	30人/年	単年	
官民連携による海外研修・留学者数	47人/年	43	-	-	人/年	↘	50人/年	単年	
② 留学生(高等教育機関)の受入数	735人/年	685	-	-	人/年	↘	1,000人/年	単年	
2020年東京オリンピック強化指定選手数	45人	47	-	-	人	-	20人以上/年 (H31) 40人程度/年 (~H28)	単年	☆
2020年東京パラリンピック強化指定選手数	20人	16	-	-	人	-	8人以上/年 (H31) 16人程度/年 (~H28)	単年	☆

3 平成28年度の主な成果・今後の課題や方向性

平成28年度の主な成果

今後の課題や方向性

【施策12】空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化

阿蘇くまもと空港の機能強化等のため、コンセッション方式による十分な耐震性能を有する国内線・国際線ターミナルビルの一体的整備とその早期実現を国へ要請した。

地震で運休した国際線定期便について、台湾線はH28年6月から定期便運航が再開し、ソウル線はH29年1月からチャーター便が運航した。

JR肥後大津駅に「阿蘇くまもと空港駅」という愛称を付けるとともに、JR豊肥本線と空港ライナーによる空港アクセスを広くPRした。

八代港では、10m岸壁等の受入環境整備によりクルーズ船の2バースでの寄港を実現するとともに、国の八代港国際クルーズ拠点整備事業が採択された。旅行会社への働きかけにより熊本城や阿蘇地域が中心であった寄港時のバスツアーの訪問先が県南地域へ拡大した。

物流機能の向上について、八代港では、大型ガントリークレーンの整備やコンテナヤードの移設・拡充に着手し、また、国際コンテナ貨物取扱量は、過去最高を記録した(18,980TEU/年)。熊本港では、韓国・釜山間の国際コンテナ定期航路が増便された。

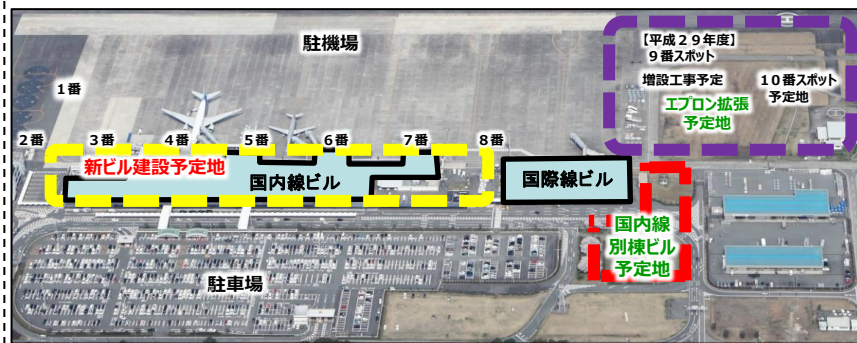
創造的復興のシンボルとなるような阿蘇くまもと空港の整備のため、実施方針等に地元意見が反映されるよう協議するとともに、空港運営について企業から魅力的な提案が多くなされるよう空港の潜在的可能性等を発信する説明会等を実施していく。

外国人観光客等の増加を図るため、国際線定期便の運航再開、既存路線の増便、新規路線の開拓等に取り組むとともに、空港アクセスの更なる改善を進める。

八代港では、年間70隻以上のクルーズ船寄港の実現と、将来的に年間200隻程度のクルーズ船の受入れを目指したクルーズ船専用岸壁等人流ゾーンの整備を推進する。

クルーズ船の経済効果を県内各地域に波及させる必要があるため、ツアーコースの多様化等に取り組む。また、船内での県産品の活用機会の創出を図る。

国内線別棟ビル及び新国内線・国際線ビルの整備（イメージ）



クルーズ船

【施策13】世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

熊本地震における支援への感謝等を発信するとともに、県産品の販路拡大及び観光PRのため、くまモンを活用し、フランスをはじめ、中国、香港、台湾、ASEAN等においてプロモーションを実施した。

国際スポーツ大会に向けて、2019女子ハンドボール世界選手権大会の会場・期間が決定し、ラグビーワールドカップ2019の会場施設整備に着手した。

大会の成果を次世代へ継承するため、熊本国際スポーツ大会実行委員会を設立し、レガシープログラムを策定した。

グローバル人材の育成について、海外チャレンジ塾等により生徒の海外大学への進学や留学に対する意識の醸成を図った。世界チャレンジ支援基金を活用し、高校生、大学生、若手芸術家等43名を海外に派遣した。

また、留学生等の修学・就職等について、大学コンソーシアム熊本による留学生誘致、外国人農業実習生のスキルアップのための研修の開始、九州内の留学生と企業をつなぐマッチングサイト開設などに取り組んだ。

「KUMAMOTOブランド」の世界展開を推進し、県産品の海外輸出を増加させるため、くまモンを活用するパートナー等の確保や現地企業との関係の構築・強化を図る。

国際スポーツ大会では、認知度・関心を高め大会を成功に導き、併せて復興の姿や感謝の心を世界に発信する。さらに、大会を開催する施設の整備を進めるとともに、世界各国との交流などがレガシーとして次世代に残るよう、本県の魅力の発信や来訪者の受入環境整備等に取り組む。

グローバル人材を育成するため、H28年度に減少した海外留学等を効果的に支援するとともに、外国人留学生の起業促進に係る国家戦略特区の導入や農業実習生等の学習機会の充実等、留学生等から選ばれる環境整備に取り組む。



フランス「ジャパン・エキスポ」



[提供：スポーツイベント・ハンドボール]

ラグビー ルーマニア代表選手との交流

©JR2019(Photo by H.Nagaoka)